

駿河土産

乾

内閣文庫		
番號	和	34299
冊數	2 (1)	
函號	159	53

53

内閣文庫			
五九函	三四二九	和	
四	二九	書	
架	冊	號	類
(一才)			

159-53



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak



周296

駿河去産卷之一

大道寺友山綴之

目錄

一 權現極於駿府城中多住渡守長 秀忠御休

一 成付 上意之事

一 權現極御饒命附洋信全返上清友偏止之事

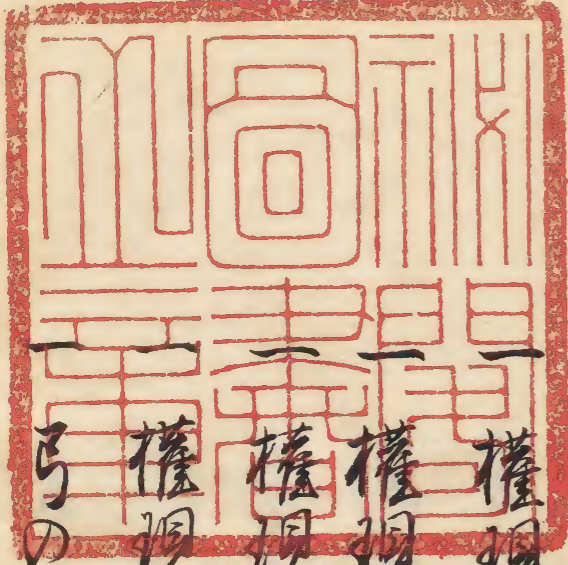
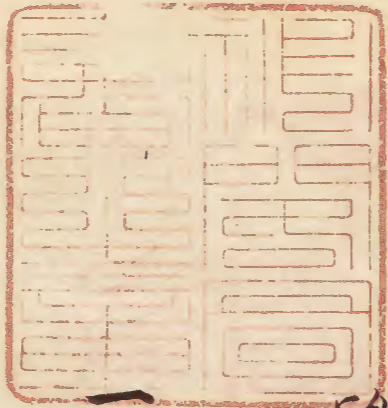
一 權現極御一生清月以古給之事

一 權現極御馬房為 巨長之事

一 權現極加友清正長是見 清正意清正長義之事

一 弓の昨之人清之家長之事

一 路須賀達居大野主馬長之事



120-23

一 古井大炊頭(新田古田)棟並御存事

以上



駿河古産巻之一

権現様駿府城に於て中多依波守の

秀忠様御門侍殿 上意之事

権現様駿府の城に由直正成の是武村中多依波守の

上意に付依波守古 依の趣と云りし

御前様も村の虚言と云依の是言う能はし

二 上意の事 秀忠様御門侍殿

因府様の由上虚言と云て其言うは是と云我亦ハ

二

あるは天降の凶年あるの候はる所のも後ある
其の力も法も人化してはる所の候はる所のも後ある
ともし天地の變とらふ物に斗り難き候あるとい打
續たる凶年あるともなして是討た候の時既に
條々候分の百姓を助すの力もたしては援助候
難き候條あるに於てはる所のも後ある
私候の民百姓を助す候はる所のも後ある
是又天下と取のの役ありね又義人の知行言
降苦をくひいとしてむとて人と取立新加ふと
とのいりる物にうまひのいりる細 將軍に

年々候はる候はる所のも後ある
我亦末子なるにまたる知行言の真教とも候
あれいりるは末子あれとて 將軍の子に
む百石や七百石の知行言と取立てる物に難き
候候とて義人の知行言と減さぬ物に難き
云事へ是亦の趣をうさる能おむ 將軍も
中事一也との 信おとらる候はる 権理探後府
御引移を扱ひてははる又は貴いものも
一糸不取扱万石の内自持とい候はる
御深居候 御他家近く四百石取に及び

たるとのせよと云お初の文を書ふに掛くは五とて
仕候にまゝ存出との事一様申して是も始末申
と云危角向候の候法大各方市貸金
傳月る爰との候に 傳出のとあり

右市借金の候月を比板金用済き京助の
江戸妻へ京向の良縁共により大田
傳中も言へ振舞ふ事余は良お傳小お教
客亮の中より右大各方の法借お止るとの
事とあ終りし事一州の用済き申すに今更
法大各方へ 公儀の申金と申貸す事候と

らる事 権現御所限存す事候に

台徳院様へ 傳事と申事たの中此一様

よて是も早急い天下傳書之の申出候

公儀小御も申す事と申候と申候と申候

法大各方小提ひて居申金と利とあり

申候と申す返との候も申す事 傳付申候

事候と有法大各方の為小大候傳も申す事

申事一に京大坂小て町人たより大各方の

大金と傳申す事候と有利金と申す事申す

申す事申す事候と有利金と申す事申す

我々も亦くは乃の指中事には我々の二は皆
余の徳也 徳者たる徳と云ふ言を立すは我
とていふ可事不律義也徳と云ふより
記す向後の徳は徳余の徳止と云ふ如く徳は法
と云ふ 徳者とていふ可事と云ふの徳は
我々の徳の二は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
りには徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
大身也亦乃の徳と云ふ言を立すは我々の
徳者たる徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の

権徳極の事

乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
事には乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の

権徳極の事

権徳極の事 乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の
乃の徳は乃の徳と云ふ言を立すは我々の

是れ其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
とる其の終と其の古の終と其の思と其の教と
忘れしこと其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
遠く其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
事たども其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
いふ其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
依つて其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と

清書云 信月 河自筆の條を因取事は清
所抄の由也。 木藏院抄河代は是 河代
子息信清也。 信月 河城河代は是也
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
權現抄河馬也。 其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と

權現抄河馬也。 其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と
其の常にして其の古の終と雖も其の思と其の教と

扱すの傳へ想してすも是ると思ふ事として
る事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
る事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
小なる事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
ありる事に事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
れくる事に事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
とる事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども

権現様如友清正の御内と清正の御内
権現様の如友主中改と事なれどもいふ事なれども大なる事なれども

内事なる事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども
事なれどもいふ事なれども大なる事なれども

之儀後あるてハ後河原入ル也然ルニ此ハ由時也
 物静ニ由ルニ法大各方ハれを系勅ノ良臣也
 其ハ承奉ノ物トモ減少ニ致ルルヨリ之ハ今
 としてハ其前にお登ルビ多ク移ルル也
 其ノ中同言テお登ル由ハ今時法大各言ノ内ヨ
 ク之ノトク教ハ皆多クとも是ノハ今時同言
 ハ利トともハ後ノハ方ハ 船中お出仕御
 ノ是ハ今ハ別して同言テお登ルル事ハ其ノ
 返答ニハ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 今月ノ事ハ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ

日比也公安ク由也今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 此去右ニケ條ナクお登ルル事ハ其ノ
 今子細由ルル事ハ其ノ後太周ノ時代ハ肥後也
 知ルル事ハ其ノ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 ありてハ其ノ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 肥後ノ國主トシテ其ノ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 大坂ノ名者ノ良ハ其ノ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 大坂トシテ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ
 此トシテ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ今時ヨリ

くさば部来と多くて是れ後とお上り少くは
ゆとまの秋来の持も此れと云部中の若夫の爲と
中流にたれは後一及更に此れを御主大存の御
何そ由用ふもさきさきいへる上流の百子内玉流
小体息は往をりなよとのり 物若採さるゝた
とのやち格ふかればよ未勅多代と云 物若の取よ
あまのい百の由用ふよと云 物若のあよま
ゆとまのさきもゆな知く也我知り此後まの
後海と遠うよお薄い流玉流の人知の意用
るよの合うのさあわれのさあれよよ者今余と云

お意の由用ふよと云とのさきよ此の住に
人知と云し中流の往成の相又部よつと云
むと後と利流しゆとさるゝと後一物味能
いふこといへるおよも物々なをさるゝよと云ゆ
さあれい何れは後しつと云と後一甲の流を
まあお附のよまといふ今ゆ忘れ難くありと云
たる御代ありと云と云と云と云と云と云と云
難くいへる作の思ひあて中流の流と云用ひ
り中流の流と云ゆと云ゆと云ゆと云ゆと云ゆ
返言の月依流もと云と云と云と云と云と云と云

権現様御成り極まれ清云と云々其がしゆりての
よき事少て此等ひに極れと也

らの所之人御三家の事を事

権現様御成り極まれ清云と云々其がしゆりての
よき事少て此等ひに極れと也
少て事少く少て知行公寸石九石田出雲と申す
者らと申すの達人ありけり云々らの事子に申す
後行林と申す者事考て後行林と名と取れ申す
り後行林と申す御成り極まれ清云と云々其がしゆりての
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す

内務省の所中此らの事事考て申す申す申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す

知行公寸石九石田出雲と申す

知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す
知行公寸石九石田出雲と申す

在誠の事も大野修理冠私可成る事も小の故を爲の
事も不致ていきて今此迄却て後らふの事も是後
何れの後よりいふ事も作らむ小の事も作らむ
也と事も小の事も兼たはる事も此の事も中後か
後と事も作らむ事も作らむ事も中後か事も
いふ事 権理極はる事も作らむ事も作らむ
事も成後らむ事も作らむ事も老老事も後らむ
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も

事也の事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
何れも事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も

公井大炊頭入新田古田指書 御内事

権理極後府は此の事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も

所のりも此の大物改り申す 上三冬今以家かこ
新田の場おとんと三冬申す 申すはらち申す
尚村三万とんと申す 新田一水も申すはらち
行ていふもたあつて申す 上三冬申す大物改
り申す三万とんと申す 新田の場おとんと申す
の候おと申す申す二水兼の場おと申す 申す申す
申す申すの候おと申す 申す申す申す申す
上三冬申す申す申す二水兼の場おと申す 申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す 権現様申す申す申す

申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
大物改り申す申す申す申す申す 申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す 申す申す申す申す申す

内用ひし物と好し

駿河古産巻之二

目録

駿河古産巻之二

- 一 命を合ふよきの猿御り解之事
- 一 阿波川の姫女登田 附 瀧 上流之事
- 一 頼朝公御信 御批判之事
- 一 内番元産及相撲之事
- 一 内是袋公お之事
- 一 京師町屋(雷)宿事
- 一 京師大佛殿就堂上流及江戸内瀬川之事
- 一 湯籠本布店大袋より 古伝信 信之事

秀頼様御見の候にて討死の法おと首檢付
御名書とす

一 宗徳様御見

一 宗徳様御見

一 宗徳様御見

一 宗徳様御見

一 宗徳様御見

一 宗徳様御見

宗徳

宗徳様御見

駿河去書卷之二

一 宗徳様御見

權現様駿河の城にて討死す 御名書とす

中快様御見 宗徳様御見 宗徳様御見

宗徳様御見 宗徳様御見

宗徳様御見 宗徳様御見

宗徳様御見 宗徳様御見

宗徳様御見 宗徳様御見

宗徳様御見 宗徳様御見

宗徳様御見 宗徳様御見

人の御事次第のつとめ事あるていふことありて
 されど 上意ありて 御承知の御座候なり
 御事おこなはれ 上意の御座候命に命はせし
 中候と申命に迄あるる御座候なり 上意の如く
 今事との御事おこなはれ 御事おこなはれ
 上意の御座候と申候なり 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ

御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ
 御事おこなはれ 御事おこなはれ 御事おこなはれ

中からよりとらきくつ新川町中一廻大踊と用いし事
幾日の次とお定り候ふはあはれ女中の中にては此
人のよしと申すゆへに女中のあはれと申す記し
よふれどもとて夜踊りの中体のあはれなり
今る女中の御いせ板極の上の上より候へる
御氣さ 石巻路の字にて御極を極と申す
此次の事とて巻ごころなる由某子とて載せし
として御極板極の跡少敷く候へしは後りゆへに
石巻のあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに

御氣さ 石巻路の字にて御極を極と申す
此次の事とて巻ごころなる由某子とて載せし
として御極板極の跡少敷く候へしは後りゆへに
石巻のあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに

権現板極の御極を極と申す

権現板極の御極を極と申す
御極を極と申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに
申すはあはれと申すはあはれに候へるに

仁徳と第一と云ふ 佛徳はさす所の可成は佛徳
行も善なる徳との 上なきおれ消しを在り居仁
同利のなき徳徳と云ふ事よき 佛徳はさす所の可成は
世と云ふらんば佛徳の利友思有連業の 善徳徳との
して一向中よなき批判と云ふの 徳徳はさす所の可成は
と云ふ徳と云ふ事よき 徳徳はさす所の可成は
徳徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は
るま徳は増しては徳徳はさす所の可成は
れ 親縁の徳と云ふ事よき 徳徳はさす所の可成は
徳と云ふ徳との徳徳はさす所の可成は

をにやしては徳と云ふ事よき 徳徳はさす所の可成は
と徳と云ふ徳との徳徳はさす所の可成は
ありして親縁徳と云ふ事よき 徳徳はさす所の可成は
徳と云ふ徳との徳徳はさす所の可成は
徳徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は
徳徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は
徳徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は
あり但る徳徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は
し 流徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は
徳と云ふ徳との徳徳はさす所の可成は 徳徳はさす所の可成は

世の治乱と老へる万民安堵の後平らうは列島の命の
如くと天下と老老の如くは天下を安堵りし事
頼朝の如くは天下を安堵りし事
よき事よ
ありきゆと也

御書九段をお撲と事

神君後府は御書九段は 御書九段は
より合意をお撲と事御書九段は 御書九段は
町と御書九段は御書九段は 御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は

後と事御書九段は 御書九段は御書九段は
よき事よき事よき事よき事よき事よき事よき事
よき事よき事よき事よき事よき事よき事よき事

御書九段をお撲と事

権現御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は
御書九段は御書九段は御書九段は御書九段は

りくの如中たうたは信と右の節の因一沙一玉なる
此は感とさるの百歳とてい信名也を古き由是感
とてお沙持よとるる 信は由是留也留子あ
とて伊行力也い清がせとの 上意とて洗滌及
したる由惟子とてい信とてい信 古き感とて
其の紀存れ信云の信由候吉洋院殿由信と
承由也去老尼の由ま為也

系於可也雷房事

權規柳後府より多由老尼由信候信より其の如存
けりよるより信りゆ老尼の物候信は系於上とて



養老の可也雷房ゆて其因の老と七人信り也ま
と信りとも二三人年とる信はよお家由也あとも雷
の信り候は信りとも信りとも信りとも信りとも
ゆき一人の二人の事には信りとも信りとも信りとも
い沙りあく雷は打也ゆ信りとも信りとも信りとも
なき信りとも信りとも信りとも信りとも 神居信りとも
ゆ信りとも信りとも信りとも信りとも信りとも信りとも
とる信りとも信りとも信りとも信りとも信りとも
たりとも信りとも信りとも信りとも信りとも信りとも
方(内)信りとも信りとも信りとも信りとも信りとも

申す者なきに建立りし事しるしの事あり物に由り
御年の此答のまに平申す事側を夫と致して
當と燒く事なき也物に於ていつの天下に九
あり右大物に於て建立はたさしは後世と彼宗
坊とあり法住と云ふ法王と知をてして
建立と逐たるとは聖徳太子御願の大仏殿と
物に於て推しなき事しと足たりし事と也宗坊の
大仏の事いふ則ち古の物に於ては建立はた
されたる後あり親父の志とおきては宗坊の
建立と事いふ物に 宗軍より推して事し

日いつくると事なるに宗坊に由り 宗軍より事と
し事とて日いつくると事なるに宗坊に由り 宗軍より事と
想して日本古事記に古事記の申す然らる神社
仏堂と云ふ物に於ては事なるに宗坊に由り 宗軍より事と
意くは上物に建立はたさしと云ふ事しと云ふ事
しては事なるに宗坊に由り 宗軍より事と云ふ事
し事とて日いつくると事なるに宗坊に由り 宗軍より事と
し事とて日いつくると事なるに宗坊に由り 宗軍より事と
し事とて日いつくると事なるに宗坊に由り 宗軍より事と

門前奉り候大層よし 石は候 侍を更
権現様御隠居候 秀忠様云 侍は許さず
小座の首へ 御目とさへし申さしよし
百は候と行要と云々 忠告曰く大層と云内
あしと云ふ事 門前奉り候御をさす御した
謹慎公助目の面へ指あたまより圓形のも
護と仰りてさあ大層の御我れを御と大層と
さあ大層の御を御とさす御と云々
りい古今うのさす事と云ふと云々小ハ
りい御を御の御と云ふと云々 侍はあり

古事 台徳院様御出の 御意を御と
さすといふ御もさす御也

秀忠様御隠居候御の御と云ふ御
御不審と云々

関ヶ原御合戦の御九月廿五日辰時 秀忠様御
さへ御別大名の御と云ふ御と云々御也
御隠居候御也 御中へ御侍と云ふ御也
御と御と云々御も御也 御也 御也
御と御と云々御も御也 御也 御也
御と御と云々御も御也 御也 御也
御と御と云々御も御也 御也 御也
御と御と云々御も御也 御也 御也

也改教して多岐との所は月城申上りといふ事
秀頼の母御後及御信事といふ事頼の初年の
事に出丸企の候より此より及首実檢の候も
毛利輝元より申上りたのは禁より此より秀頼の
事なる候といふ事と御後及御信 秀頼の
事なる候 御後及御信 権現御印事なる事秀頼の
事なる候なりしれ向後の候は御後及御信なる事
なりし事なり 御後及御信なる事なる候と此より
一戦の事なる事なる事なる事なる事なる事なる事
候なり 御後及御信なる事なる事なる事なる事
候なり

体長仕由也

駿河古産卷之二

駿河古産卷之二

目錄

- 一 駿府御城下御所御事
- 一 相平御所御事
- 一 伏見城之相平御所御事
- 一 醍醐定行院御事
- 一 駿府奥女中御事
- 一 御所御事
- 一 御所御事
- 一 御所御事
- 一 御所御事
- 一 御所御事

一 御軍法御儀之事

一 伊豆守御儀之事

一 大坂守御儀之事

一 大坂守御儀之事

一 大坂守御儀之事

一 大坂守御儀之事

一 大坂守御儀之事

一 大坂守御儀之事

御

駿河古書卷之三

駿府御城の御書之事

権現様御府の御書之事

御初之御村御儀之事

御宅の御書之事

御出の御書之事

御村御儀の御書之事

御村御儀の御書之事

御村御儀の御書之事

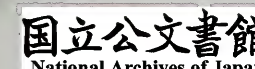
御村御儀の御書之事

後世のつとめは後いびくとしておぼしめされしもの意はこれなり也
 可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは
 可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは
 可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは

可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは

文永十一年

可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは
 可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは
 可事 権現様の御願は達し奉りて在りしは後いびくは
 増す可事といふは後いびくは御願は達し奉りて在りしは



お更張生ぬれ月少く一服の事と云ふ 上意出せぬと
し後 権現権御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代

又汝いよと云ふは御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代

醜聞定行院を居る事

権現権御代は御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代

駿府より奥女中松下浄安と御代

権現権御代は御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代
りり御影御代は御影を所成入して御代

三十一
はくふさしと 権現様御願事並年寄書中尾を
まの 右澤宗元事と云ふ事のそくふいひ
情もゆはく 御願事御願事といふ事のまわてり
を御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
〜〜〜御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事

三十二
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事
御願事といふ事の中は清涼の香の御願事

なるり然りなるとしつゝ此の傳記中よりこの事

右相平清盛の事記す所を考へて之を以て

今以後府内城中に清盛の事記す所を以て

清盛の事記す所を以て

英清の事記す所を以て

英清の事記す所を以て

少て記す所を以て

然りなるとしつゝ此の傳記中よりこの事

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

權記の事記す所を以て

なるり能く記すなりと申す所の御記の御記の御記

右打平御記の御記の御記の御記の御記

今以後御記の中御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

御記の御記の御記の御記の御記

雅子の書そのわう麻程の註ひよも物教をなせり
定て撰録しつゝあつてなほいふに後之に及され
物もまゝりしと始ちて不段をうの考へて教へ
よ書の中心又一度の書寫せしむるこれ中一紙
の亦物教をまゝりしをいふる定て撰録しつゝ
あつてなほいふ一段と撰録法は後人々の考へ
を依りながらあつてなほいふに後之に及され
りぬ 権規抄の書いふに物教をいふる考へ
のつゝの書いふに記行をいふる考へは
いふのつゝ物教の書いふる考へは

よきまゝにせり

御軍法書小條文字 御討面書

権規抄小御軍法書は御軍法書より物教の
御誦よひにせり大場山ありて中合戦と云ふ
中合戦はゆゑに御流の御軍法と御用ひし物
をいふに御軍法は御流の御軍法に依りて
御軍法といふことと御軍法といふことあり
御軍法といふ事申尾の長久寺に於て御軍法
考へるの大軍に御向ひせられ小部の御軍法
大御軍法といふ事いふ後と云ふ事いふ

おちて頼りなきと云 信出をさしつゝ成敗を爲す
是れは御意ありと云 信月おええの御意
井伊直政柳宗原政あまを捕はし三人を合の
竹末小五郎 信月を御意あり 五若湯田宗
の甲辰辰の事の中にあな井伊直政の御意
と云ふ事たる向て柳宗原信出の事と云
まゝにゆり信出にゆりゆりゆりゆりゆりゆり
急ぐゆり信出を御意ありゆりゆりゆりゆり
の御意と信出流の御意と云せらるる事の中
の御意と信出の御意と云せらるる事の中

三七
自今以後を武田流の御意と云せらるる事の中
よし御意の中の御意と云せらるる事の中
者れと云承かたはる御意と云せらるる事の中
小栗氏政氏直の父子ゆりの境目と云せらるる
と云すの御意と云せらるる事の中
控惣掃きり氏政の御意と云せらるる事の中
御意と云せらるる事の中御意と云せらるる事の中
と云せらるる事の中御意と云せらるる事の中
と云せらるる事の中御意と云せらるる事の中
御意と云せらるる事の中御意と云せらるる事の中

きりくも月日の日限お免の月前日に
より津津の城と山城は西日にありと傳へ
所城は山城は新く治夜の日池を治りし
所傳くは津津の城の印部は後まゝとされこ
わち今も父父子の能く西傳すといふ津津の城と
る海として城目の城はひろくといふ印部の要
言といふも伝はるるも方能く言はれんとされ
父子れらるるをさしつけしといふ津津の城と
後傳くは西のひろく世と隠れあへといふも
お免の所傳は、徳川邸とも東傳といふ事

編考しつう程又今も度々所の言合せてといふ
印と傳へ人のいふとれし所中一切の軍法と
信を流しとされし所の取はさるゝ以後
しきももあきらむる川物老翁といふ言はれ
る所の言つゝる言ふともさしつけし言はるる
辞も、終てい法人をといふ川物老翁の言と古傳
とありと傳へと傳へて言はれし言はるる
徳川邸といふ所の言合せてといふ言はるる
とてまゝとおよぶ

所軍法所傳の事



後醍醐天皇 今迄の今時の人政と云ふ
者として軍法としてして本抗の機として
宗節とてて人殺と云ふをいひていひて
ふや口のいひてのり知事りして軍は勝る
そのとていひていひていひていひていひて
味方法人のいひていひていひていひて
御う者ふていひていひていひていひて

御三宮御出家御事

後醍醐天皇 今迄の今時の人政と云ふ
者として軍法としてして本抗の機として
宗節とてて人殺と云ふをいひていひて
ふや口のいひてのり知事りして軍は勝る
そのとていひていひていひていひていひて
味方法人のいひていひていひていひて
御う者ふていひていひていひていひて

甲
御三宮御出家御事
後醍醐天皇 今迄の今時の人政と云ふ
者として軍法としてして本抗の機として
宗節とてて人殺と云ふをいひていひて
ふや口のいひてのり知事りして軍は勝る
そのとていひていひていひていひていひて
味方法人のいひていひていひていひて
御う者ふていひていひていひていひて

尾張虎の如くもつる者なりと云ふ一法也其命も
形をけ其人の形も海とぬらぬあるは其命も
たぬなり 信濃人として武田信玄の如く命も
其海とぬらぬ一つれぬと法人の如くして
大言の如くして武田信玄の如く命も
余として 権柄の 御前へ其命も
去比大坂の城の目録を云々と来向し 其命も
其命も武田信玄の如く命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も

其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も
其命の如く命も其命も其命も其命も

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official seal impression.

Red square seal impression with the characters '内閣' (Imperial Household Agency).

Vertical handwritten text on the right side of the page, possibly a date or reference.

Red square seal impression with the characters '内閣' (Imperial Household Agency).

Red square seal impression with the characters '内閣' (Imperial Household Agency).

